# 富士特別支援学校富士宮分校　令和7年度　第３回　学校運営協議会
# 【報　告】

１　学校運営協議会委員（敬称略）

| | | |
|---|---|---|
| 山元　薫 | （やまもと　かおる） | 静岡大学准教授 |
| 遠藤　久仁子 | （えんどう　くにこ） | 富士宮市社会福祉協議会事務局次長 |
| 関澤　新一 | （せきざわ　しんいち） | 株式会社大一セラム　代表取締役 |
| 竹山　幸男 | （たけやま　ゆきお） | 琴平区長 |
| 小谷　和之 | （こや　かずゆき） | 静岡県立富士宮北高等学校長 |
| 鈴木　明哲 | （すずき　あきのり） | 令和7年度PTA会長 |

【教職員】

| | | |
|---|---|---|
| 髙田　宗享 | （たかだ　むねたか） | 校長 |
| 若松　唯晃 | （わかまつ　ただあき） | 教頭 |
| 村松　昇 | （むらまつ　のぼる） | 高等部主事 |
| 大河原　明希子 | （おおかわら　あきこ） | 教務主任 |
| 松尾　佳代 | （まつお　かよ） | 1年主任 |
| 渡邉　康子 | （わたなべ　やすこ） | 2年主任 |
| 村松　友余 | （むらまつ　ともよ） | 3年主任 |

２　次第

（1）開会　　進行（教頭）

（2）校長あいさつ　（校長）

（3）議事　　司会：山元会長

ア　今年度のまとめと次年度の方向

①令和7年度学校評価（学校関係者評価）について（教頭）

・今年度の評価（保護者評価　職員評価　関係者評価）

・生徒の学習の様子（学年主任）

②コンプライアンスについて（教頭）

・今年度の不祥事根絶の取組について

③次年度の学校経営について（教頭）

・令和7年度富士宮分校学校経営　方向性の提示

④富士宮北高との共生・共育の進捗報告（教頭・部主事）

※議事③終了後に、高2の合唱　高3の職業「This is me」の参観

（4）協議「分校をさらに良くするために」

「生徒が主体的に参画する地域での活動について」

（5）閉会　　（校長）

**〇校長あいさつ**

年度末を迎え、卒業式を2週間後に控えている。今年一年を振り返ると、富士宮北高や地域の方々の協力により連携が非常に深まった。本日は「分校をさらに良くするために」というテーマで、地域に根ざした教育の推進について忌憚のない意見をいただきたい。

**〇学校自己評価について（教頭）**

＊教頭による学校自己評価の説明及び学年主任より１年間の生徒の成長を報告。

**遠藤様）** 丁寧な教育であり、不登校がいないのは素晴らしい。社会に出るための言語化能力や基礎学習への取り組み（ビブリオバトル等）が丁寧に行われていることが良い。教員の多忙感について、量と質のバランスを上手にとってほしい。

**竹山様）** 生徒が防災訓練などに前向きに取り組む姿から、地域との協調性が強まっていると感じる。

**小谷様）** 教職員間の信頼関係が良いため、生徒が内向きにならず、外向きで上向きの姿勢に繋がっている。整理整頓が行き届いている点も危機管理上素晴らしい。

**関澤様）** 社会に必要なスキルを細かく丁寧に指導している。教員自身はさらに高い目標を掲げ、厳しい視点を持っているため、このようにしていければ今後さらに良くなると思う。

**鈴木様）** 子どもを通じて、幼稚園交流で小さい子への接し方を真剣に考える姿に成長を感じた。防災学習の後に、住んでいる地域について確認しようとすることにも驚いた。部屋の整理生徒をできるようになったことも分校での良い影響。教員からの指導は、保護者が気付かない部分もあり、重要な気付きとなる。

**山元様）** 学習活動の充実、教員の子どもへの視線や言葉かけがよく、生徒を一人の青年として尊重する姿勢が良い。

防災学習は、活動して終わりではなく、他場面でも応用できるよう一歩踏み込んだ理解が必要。地域からの具体的な評価（アンケート等）を生徒にフィードバックする仕組みも検討してほしい。生徒に評価を返すことで、自己肯定感や他者からの評価を意識することにつながる。

生徒アンケートは多くの生徒が「学校が楽しい」と回答しているが、「楽しくない」と回答した生徒へのケアが気になる。「授業がまあまあわかる」が約3分の2であるが、「よくわかる」を目指し、生徒の知的探求心を刺激するような感動できる授業を提供してほしい。

**〇コンプライアンスについて（教頭）**

＊教頭より、今年度の不祥事根絶への取り組みを説明し、不祥事案件0の報告を行う。

**小谷様）** 高校では、自転車でのヘルメット着用を義務化する。大人の交通規範についても継続的に呼びかけていく。

**関澤様）** 些細なことでも情報が流布し、意図しない結果につながる可能性がある一方で、他者の評価を気にしすぎて行動をためらうことは、結果的にマイナスに働く可能性がある。情報の受け取り方は人それぞれ異なるため、その時々に応じた適切なやり方を模索し、共有しながら進めることが望ましい。

**鈴木様）** 教職員が問題を一人で抱え込み、精神的に追い詰められることを防ぐためにも、様々な外部機関と協力して対処できる体制を構築できると良い。

**遠藤様）** 教員は専門職としての高い倫理観をもって職を選んでいるはずである。表面

的な規則遵守としてとらえるだけではなく、なぜこの仕事を選んだのかという原点に立ち返ることが重要。規則に縛られすぎることで、志をもった教員が疲弊するのは非常に残念。専門職としての誇りやプライドを大切にし、過度に疲弊しないようにすることが必要。

**竹山様）** 企業と異なり、学校におけるコンプライアンスは非常に難しい問題。教職員が狭い枠組みの中で問題提起を行うと解決が困難になる傾向がある。様々な外部機関と連携していくことが問題解決の有効な手段となり得る。

**山元様）** 雰囲気が良い学校では、重大なミスにつながる危険性がある。良い雰囲気づくりと並行して、ミスが出ない、あるいはミスが起きてもカバーできる仕組みを構築することが必要。また、今後の教育では人権感覚が非常に重要となる。現在の実務的なレベルの人権感覚にとどまらず、より広い視野での人権感覚に拡張していく必要がある。大人が望む世界を子どもが再現するのではなく、子ども自身が「こうしたい」と考え、その実現に向けたベクトルを持てるように支援するものへと変化していく。このようなキャリア教育の根幹にも人権感覚があり、教員の魅力を高めるためにも、その拡張を目指すべき。

**〇令和8年度 富士宮分校経営方針について**

＊校長・教頭より、次年度の分校経営方針について説明。

**竹山様）** 中学校の特別支援学級との協力体制構築は、学校として必要不可欠な取組であるため、ぜひ推進してほしい。

**小谷様）** 北高も「社会に愛される 18 歳」を掲げている。「尊重し合える」という方向性は共通しており、連携を深めたい。 また、富士宮4高校が連携している取組においてもつながりがある。富士宮地区の高校生と分校生の交流に発展する可能性を秘めている。

**関澤様）** 人権のみを過度に主張する生徒が増えると、社会に出た際に困難な状況に陥る可能性がある。人権教育では「権利」だけでなく「責任と義務」も織り交ぜることで、社会に出た時のギャップを埋めてほしい。また、中学校の特別支援学級との連携が非常に重要である。分校に進学した生徒が大きく成長する姿はよく見られるが、小中学校の教員がその事実を十分に理解しているのだろうか。その溝を埋めるアクションをすることで伸びる生徒もいると思う。

**鈴木様）** 特別支援学級から通信制高校等を選ぶなど、選択肢は増えている。分校でしか得られない経験があると実感しているので、その魅力を中学校の先生方、中学生、保護者へとうまく伝わると良い。

**小谷様）** 特別支援学級から北高に入学する生徒もいる生徒に最適な学びの場を選択できるようにすることが重要。多様な選択肢を提示するために、あらゆる学校に対して積極的に情報発信をしていく。北高の発信と連携していけたらよいと思う。

**山元様）**「リスペクト」の概念は大切であり、自分のことも周りのことも大切にすること。どのように生活することがリスペクトなのか、具体的に教えていく必要がある。

・防災防犯及び安全に関する「学習内容の工夫」とは、何をどのように工夫するのかきちんと詰めておくことが必要。

・健康な心身については、一生使える体にするためにどのようにするのか、しっかり学ぶ必要がある。今学ばないと一生学べなくなる。

・授業改善に関しては、「なりたい自分」を目指す長い見通しと、一人一人の深い学びの二つの柱が目標に入っているため、わかりにくくなる。整理が必要。

・小中学校の進路先の多様化など、理解や支援が難しくなっている。コーディネーターが学べる機会を学校で設定していく必要がある。

・分校のアイデンティティをどのように伝えていくのか考えたとき、特色が大事になる。特色を明確にし、伝え方は対面と SNS を駆使していくことが必要。

---

授業参観
2年合唱「Tommorow」
3年職業「This is me」

---

**〇共生・共育の進捗状況**

＊教頭・部主事より、本年度の富士宮北高との共生・共育の進捗について説明。主に「みやラン（北高とのランチミーティング）」「プロプロ（作業製品プロデュースプロジェクト）」について報告。

**小谷様）** 授業での取組が始まっていることを嬉しく思う。商業科の1年生はビジネス基礎、2年生はマーケティングの授業である。教育課程上に位置付けられ、高校の目標に準じてやれることが良い。また、教員がそのことを理解しながら進めているということが重要。

**鈴木様）** 北高生からの言葉や姿に刺激を受けている。北高生からの「すごい」という言葉が、分校生の自信につながっている。 このつながりを継続してもらいたい。

**竹山様）** お互いの得意分野（分校は「作る」、北高は「企画」）を尊重し合う関係は非常に良い。 北高と分校のつながりからさらに枠が広がると良い。例えば企業とのタイアップなどもできると良い。

**関澤様）** 急いで拡大しようとするとついていけなくなる。少しずつ、生徒が自発的に広げ、周りの人を巻き込む形になると良い。プロプロでは、製品を市場に出すところまでいけると本当は良い。共生・共育は社会に出た後、お互いを認め合いながら働くことにつながる。

**山元様）** みやランは細く長く続けることが大切。無理に全校での取組にしなくてよい。将来の障害者雇用において、高校時代の交流は従業員の心理的障壁を下げる効果がある。プロプロは、北高の専門的知識をもっと取り入れて、特別支援学校の教員の弱い部分を学ぶことが大事。職場実習でも見え方が変わってくる。専門性を持つ北高の先生から学ぶ機会（マーケティング等）をプログラム化すれば、分校のアイデンティティがより明確になる。

**〇協議「分校をさらに良くするために」**

**関澤様）** 授業「This is me」は、自分の得意・不得意を客観視する素晴らしい学習。実習先については、早い段階で絞りすぎず、多様な職種に触れる機会も大切にしてほしい。 いろいろな職種を経験させてくれていたほうが、採用後ありがたい。

**鈴木様）** 「This is me」で語られる先輩の姿は、入学を検討する中学生や保護者にとっても非常に分かりやすい魅力になる。

**遠藤様）** 自分の歩みを振り返り、SOS を出せる力を育てている点は、全国の高校生に見習ってほしいほど素晴らしい。 仕事を考えるとき、様々な雑音がある中で、ゴールは就職ではない。何かあったとしてもやっていける力が大事になる。

**竹山様）** 自分の意見が言える姿勢が良い。自主性、協調性など良い環境の中で学べていると思う。生徒をいろいろなところに出してアピールすることが生徒の自信になる。個性重視の世の中なので、生徒が自分のことをしっかりと理解していくことが大事になる。

**小谷様）** 分校と北高がお互い切磋琢磨している。今回の良い意見を分校の教職員に伝えてほしい。教員が褒められる機会は少ないが、褒められることで生徒に還元される。

**山元様）** 教員と生徒の間で見えない倫理観が機能し、節度ある関係性の中で教育がなされている。キャリア教育での自己理解・自己決定と進路決定の二軸が必要であり、二軸がないと狭い進路指導に終始してしまう。「This is me」では型にはまったターニングポイントを求めるのではなく、生徒自身の「拙いけれど本物の言葉」を尊重してほしい。また、概念的な大人の言葉ではなく、知的障害教育として具体的な言葉に落とし込む工夫を継続してほしい。

**〇閉会あいさつ（校長）**

多くの貴重な意見に感謝する。富士宮分校にはこれまでの歴史の積み上げがあり、実践が概念として整理されている強みがある。今後はそれらを整理・精査し、教職員が無理なく、かつ生徒に還元できる形を追求していきたい。

| |
|---|
| 表現方法や言葉等で正確ではないところ、また発言内容を一部解釈し、変換した表現になっている部分もあります。<br>御理解御了承いただきますようお願い申し上げます。 |